

かわせみ通信

※野外施設の情報は、ホームページで詳しく見られます↓



野外施設自然情報

県立自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

このかわせみ通信では、主に7~9月に記録された野外施設の自然の情報を掲載しています。

<最近の話題>

●センサーカメラで見る動物たち

6月に保全センター敷地内でクマの目撃や足跡が確認されたことから、自然観察園内での野生動物の行動を確認するためにセンサーカメラを3台設置しています。7月27日から9月25日までにカメラで記録された動物たちの種類と撮影された回数をまとめました。



Y25 奥 (9/17 撮影)

シカ3頭。メスと若い個体ようです。角の生えたオスも撮影されています。

ウリ坊兄弟。画面には3頭だけですがぞろぞろ続いて、合計なんと6頭!



Y32 奥 (9/13 撮影)



Y32 奥 (8/1 撮影)

長いしっぽと白い鼻筋がばっちりのハクビシン。

撮影した動物の種類と写った回数

Y25 奥

哺乳類	回数	鳥類	回数
タヌキ	18	ガビチョウ	24
シカ	10	クロツグミ	6
アナグマ	10	コジュケイ	3
イノシシ	8	キビタキ	2
ノウサギ	2	ウグイス	1
ハクビシン	1		
アカネズミ?	1		

Y32 奥

哺乳類	回数	鳥類	回数
ハクビシン	34	フクロウ	2
イノシシ	9	クロツグミ	1
アナグマ	4		
タヌキ	2		
シカ	2		

Y34 奥

哺乳類	回数
シカ	23
イノシシ	13
タヌキ	3

シカとイノシシはY34奥でよく撮影されていますが、9月に入ってからY25、32奥のカメラにもうつるようになりました。日々行動する場所が移動しているようです。



Y25 奥 (8/7 撮影)

こちら常連のタヌキ。
カメラを警戒しているような
動きが見られました。

この残像はノウサギです。
動画では元気に飛び跳ねて
いきました。



Y25 奥 (8/13 撮影)

このフクロウはかわいい顔も
しっかり見えました。沢の
水を飲みに来たのでしょうか。



Y25 奥 (8/18 撮影)

ネズミの仲間。園内では天敵に
襲われたのか、アカネズミの死
体が見つかることがあるので、
アカネズミかもしれません。



Y32 奥 (9/3 撮影)



Y25 奥 (9/19 撮影)

地上を歩く鳥はカメラにも写りや
すいです。こちらはクロツグミ
のメス。今年たびたび観察された
夏鳥です。



9/21 に本館の脇で見つかったクロ
ツグミのオスの死体。
窓ガラスに衝突？

●アメリカザリガニ釣り結果報告

実施期間:5月6日～10月1日

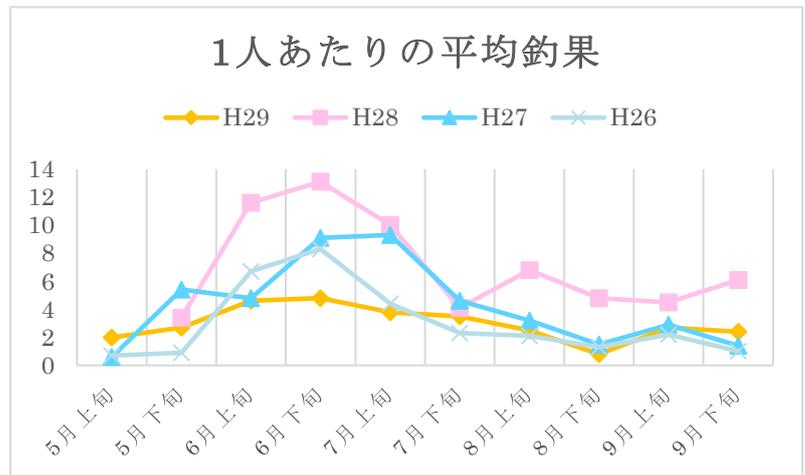
参加人数:1,480人

釣果:4,602匹

昨年の6,930匹に比べると減少しましたが、
昨年10月に沼2の水を抜いて子ザリガニを
1042匹捕獲したことや、7月に水が干上がり
釣りできない状態が続いたことが影響してい
るかもしれません。

半月毎の釣果を見るとどの年も6月上旬から
7月上旬頃がよく釣れています。ザリガニは

春から秋にかけて繁殖時期で、秋に向けて卵や子どもを抱えたメスが多くなります。今年も8月に1匹の子持ちザリガニを捕獲した参加者がいました。このような個体は基本的に巣穴にこもりエサも食べなくなるため、8月以降は釣りでは捕獲しにくくなるようです。ザリガニ釣りは真夏になる前がオススメです。



ミニ観察会に参加しませんか？

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。

*毎週日曜日・祝日に開催しています。

*申込不要・参加費無料

*当日の13時に本館前に集合(約2時間)

母ザリガニの腹の下に
隠れる子ザリガニ



傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報は、ホームページで見られます↓

神奈川県 自然保護課 野生動物救護

検索



自然環境保全センター（旧自然保護センター）では傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた、傷ついたり弱ったりした県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和 53 年から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

<平成 29 年 7 月～9 月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種

順位	種名	件数
1 位	ツバメ	28 件
2 位	スズメ	20 件
3 位	ヒヨドリ	7 件
4 位	アブラコウモリ	6 件
5 位	シジュウカラ	5 件
5 位	イワツバメ	5 件

主な救護原因

鳥類		哺乳類	
ガラス窓などへの衝突	22 件	巣から落下	5 件
誤認保護	16 件	交通事故	2 件
ネコなどに襲われる	13 件		
釣り糸(針)や防鳥ネットなどに絡む	5 件		
ネズミ捕りなどの粘着剤にかかる	3 件		

<夏のイベント実施報告>

●野生動物を学ぶ 夏休み子供体験教室を実施しました！ 共催:NPO 法人 野生動物救護の会

7 月 29 日（土）に 7 名の小学生が参加しました。

まずは、NPO 法人野生動物救護の会の方と一緒に保護された野生動物を見学、続いて動物達の部屋の掃除とエサやり、そしてムクドリ 6 羽の放野などを体験していただきました。その後、保護された動物たちを前に、どうして保護されることになったのか、野生動物の現状や神奈川県の取組みについて、お話をさせていただきました。



保護された野鳥について説明している風景

<放野報告>

●小さなフクロウの成長記録

7 月 10 日に相模原市緑区内で木の伐採をしていた時に地面の上にいるところを保護され、翌日に持ち込まれました。この白くて小さなヒナの成長記録を紹介します。

7 月 11 日

体重 56.6 g

受付時の体重測定の様子。ケガはないようですが、保護時は 57 g だったそうで少し体重が落ちていました。この手の平サイズの白いヒナは、いったいどんな鳥になるのでしょうか？



7 月 12 日頃

体重 50 g

また体重が落ちてしまいました。

本来、親鳥に食べさせてもらう時期なので人肌程度に湯煎したミンチ状の肉を 1 日 5 回にわけてピンセットで食べさせます。食欲は旺盛！ここから大きくなるといいな。



7月25日頃

体重 119.5 g

茶色の羽が出てきました！目の色は濃い黄色でしょうか？耳のような羽（羽角）も目立つようになり、まるでオオコノハズクのような姿をしています。この頃になると自分でエサを食べ始めました。



7月31日頃

体重 119.9 g

茶色の羽が目立つようになりました。この日、初めてペリット（消化できない骨や羽毛の塊を吐き出したもの）を確認することができました！内容物に巣材のワラが入っていたので巣箱に変えて、部屋も少し広くなりました。この頃から骨や羽毛つきの肉に加え、コオロギやセミなど色々な昆虫も与えるようにしました。人を見ると近づくようになり、人馴れしてしまうのではないかとヒヤヒヤ……………。

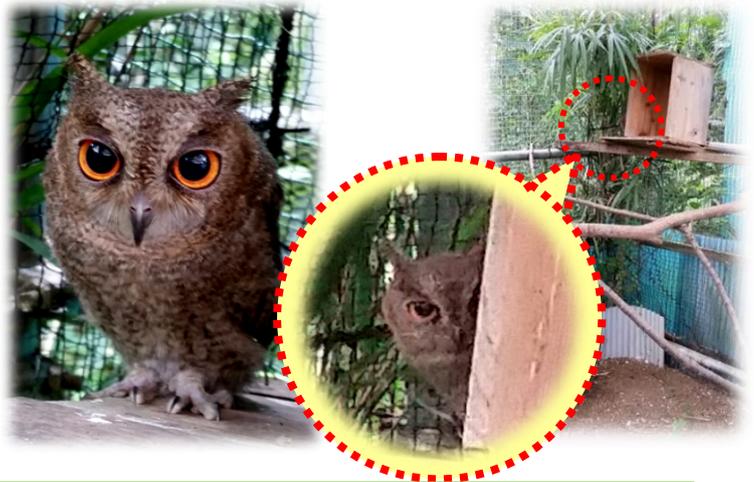


9月27日頃

体重 137.7 g

飛ぶ練習ができるように野外の広い部屋に出しました。野外の部屋に出て数日で人の気配を感じると身をかくすようになり、人馴れの心配もなくなりました。

ボランティアさんに生きた昆虫を捕まえてもらい、部屋の中に放して狩りの訓練もします。



10月10日 放鳥

放鳥時体重 151 g

まだ日中は暖かく昆虫も出ているこの時期の夜に保護した地域で放鳥しました。

からだの大きさと成長後の目の色がオレンジ色だったことからオオコノハズクだとわかりました。この種類の巣内ビナを受け入れた記録が残っていないことから、初めての記録となりました。ただ、初めてということもあり、狩りの訓練方法など反省、改善点も多く残りました。とはいえ、この日を迎えることができたのは、手厚く保護してくださった方や人工育雛の経験談や情報提供、日々の成長を記録に残してくださったボランティアの皆様の御陰です。心から感謝申し上げます。

種 名：オオコノハズク

生 態：夜行性で小鳥や小さな哺乳類、昆虫などを食べ、樹洞や巣箱で繁殖します。1年中いますが姿を見ることは難しいです。

救護原因：営巣木の伐採